

サッカーの第96回全国高校選手権県大会最終日は12日、諫早市のトランスコスモスタジアム長崎で決勝が行われ、長崎総合科学大付が長崎日大に延長戦の末、2-1で競り勝ち、2年連続5度目の優勝を果たした。長崎総合科学大付は全国高校選手権

(12月30日開幕・首都圏)の出場権を獲得。組み合わせ抽選会は20日に東京で行われる。6月の県高総体決勝と同一カード。長崎総合科学大付は前半3分、FW中村の先制点で主導権を握った。後半は長崎日大が猛攻を仕掛け、残り5分でFW

石見がPKを決めて追いついた。延長戦は一進一退の攻防を繰り返す、後半10分、長崎総合科学大付のDF田中が混戦から勝ち越し点を決めた。大会得点王は、6ゴールを挙げた長崎総合科学大付のFW安藤瑞季が輝いた。(中島崇雄)

▽決勝

長崎総合科学大付	2	延	0	1
長崎日大	1	0	1	0

▽得点者【総】中村、田中【日】石見

し込んだ。長崎日大はFW石見、吉川、高比良の突破から好機を演出。後半は相手より5本多いシュート7本を放った。土壇場で延長戦へ持ち込んだが、試合終了間際に一瞬の隙を突かれた。

【評】長崎総合科学大付が序盤と終盤に混戦から得点。長崎日大に競り勝った。長崎総合科学大付は早い寄せでボールを奪うとFW西原、安藤へ縦パスを供給。FW荒木、中村が絡んでゴールへ迫った。後半は中盤にスベ

浦川美口、田村口、武見川良、三田、瀧川本、牧田吉高、高橋、GK DF MF FW KKKH CFPKS 本中、中井、村松、藤原、6、19、0、12 岩崎、田武、小別、荒中西、長崎総合科学大付、長崎日大、西原、柏木、田中

# 長崎総合科学大付 競り勝ちV2

## 果敢に攻めるも惜敗

長崎日大



○：6月の県高総体決勝で長崎日大に2-1で惜敗し、ちがいでやられていた。特に長崎日大。亀田監督は立悪いとこもなかったし、

よく頑張っていた」と選手たちをねぎらった。0-1を迎えた後半、ゴールに向かってサッカーをしていこう」という亀田監督の指示通り、攻めの時間が長くなった。細かいパス回しから何度もチャンスメ

石見は「シュートまでの形が出せなかった」とうなだれた。ゲームキャプテンを務めたDF本田は「もうちょっとだったけど、最後は力だね、伏せられた。あとは後輩に託すしかない」と言葉を選び続けた。(湯村高大)

## 長崎日大に2-1 延長後半 主将の一発

PK戦へ突入か。そんな雰囲気会場に漂っていた延長後半10分、ゴール前の混戦で長崎日大のDFとGKが交錯。こぼれ球は、長崎総合科学大付のDF田中の前に転がった。「みんながつかないでくれた。思い切り振り抜こう」。主将の劇的な今大会初得点が、チームをV2へ導いた。6月の県高総体決勝は1点差で競り勝った。「今回も接戦になる」。田中の予想通り、簡単に勝たせてはくれなかった。前半3分にFW中村のミドルシュートで先制し、ながら追加点が奪えない。モンゴルで8日まで開かれたU-19(19歳以下)アジア選手権予選から帰国直後のFW安藤も「万全ではなかった」。後半は連動してパスをつなぎ、裏

ハイライト

へ抜け出してくる相手の攻撃に脅かされた。残り5分でPKを決められて同点、延長戦も互角の展開だった。勝敗が決すると、選手たちはほっとした表情を浮かべた。安藤は「苦しい試合を勝ち切れたのはよかった。長崎の代表として、日大の分も背負っていく」と決意を新たにしていた。

夏の全国高校総体は準々決勝まで勝ち上がった。小嶺監督は「全国は横一線」とみている。田中は「課題はたくさんある。全国大会までに修正し、1個ずつ勝っていった日本一になりたい」。苦しんでつかんだ全国切符。反省も、ライバルの思いも力に変え、県勢14年ぶりの栄冠へ突き進む。(中島崇雄)

### ひと言

◆長崎総合科学大付・小嶺忠敏 監督 イージーミスが多かった。日大さんの持ち味を全部発揮させてしまった。毎年地区予選というのが一番(難しい)。これを超えて子どもたちも強くなる。

◆同・田中純平主将 先制した後のゲーム運びがまずかった。失点をして80分で勝ちきれなかったのが反省点。守備の部分で一人のサボりがチーム全体に出た。

【決勝】長崎総合科学大付(左から2人目)がシュートを決め、喜ぶ選手たち。|| 諫早市、トランスコスモスタジアム長崎(別行優志撮影)

